

We are the first !

## 高知県木質資源エネルギー活用事業

### プロジェクト

#### 森林の現状と価値

高知県は、森林率84%と全国一の森林県です。そのうち、スギ、ヒノキを主体とした人工林が約3分の2を占めています。しかし一方では、木材価格の低迷から整備に要する経費を支出することができず、間伐等の森林整備が遅れているのが現状です。

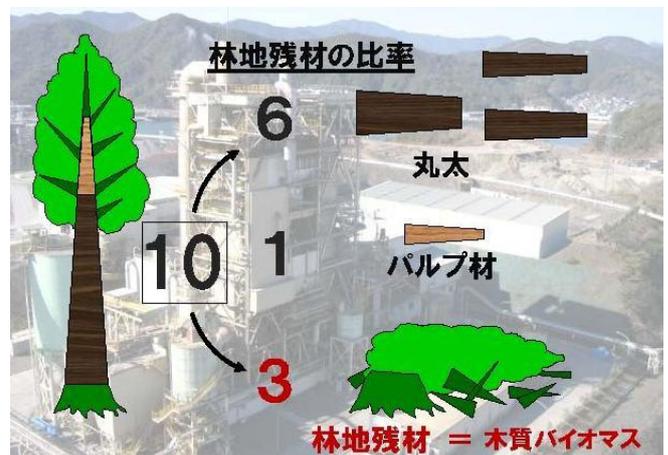
こういった状況の中、近年、地球温暖化が叫ばれ、温暖化対策の一環としての森林資源の環境価値に注目が集まっています。

森林は間伐等の森林整備を行い、適正な管理を行うことによって森林吸収量が増大するだけでなく、未利用の林地残材などを木質バイオマスとして活用することによって化石燃料を削減することができます。

#### 背景

森林の適正な管理として実施される間伐により生産される木材。しかし、利用できない枝葉や根株は山に残されたままです。

1本の木を伐採すると約70%は丸太材、パルプ材として出荷できますが、残りの約30%は未利用林地残材として林内に放置されます。



放置された林地残材は、林内で分解するのが通常ですが、大雨などにより河川へ流出し、ダムに蓄積するほか、海まで流出して沿岸漁業に悪影響を与えることもしばしばありました。



放置された林地残材



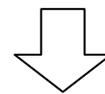
ダムにたまった流木



海岸の流木

## プロジェクトの特徴

私たちは、この未利用林地残材に着目し、木質バイオマスとして利用するプロジェクトを開始しました。なお、プロジェクトは次の工程を経て実施されています。



Japan Verified Emission Reduction  
Project implementation place

No. 2 thermal power plant  
Sumitomo Osaka Cement, Inc.  
Kochi factory



## J-VER 国内第 1 号プロジェクト

私たちは、この未利用林地残材の木質バイオマス利用に着目し、平成 19 年度から「排出量取引地域モデル事業」を実施し、高知県独自の CO2 削減認証制度の検討を行ってきました。この制度設計が、京都議定書に規定するクリーン開発メカニズム（CDM）に準拠した制度であったこともあり、平成 20 年 6 月に環境省の「国内排出削減プロジェクトからの V E R 認証試行事業」に採択され、国内排出削減プロジェクトからの V E R 認証基準や管理のあり方を策定することとなりました。つまり、この事業から国内における J-VER 制度が立ち上がることとなったわけです。

## ストーリー性

### 地域貢献

このプロジェクトは、今まで廃棄されていた木質バイオマスをマテリアル利用するという観点で周辺地域に大きく貢献しました。併せて、このプロジェクト実施により林業に新たな雇用が創出されています。

### 森林整備の計画的推進

火力発電施設などの大型施設において木質バイオマスを利用するためには、安定的な供給が絶対条件となります。高知県は、まとまりをもった森林の計画的整備について認定を行う「森の工場」を推進しており、プロジェクト実施にあたって主体的に未利用林地残材の供給を担っている須崎地区森林組合では、この「森の工場」認定を受け、計画的な森林整備と未利用林地残材の供給を行っています。

### 地域の特徴

- 1 エネルギーの地産地消を目指し、主としてプロジェクト実施地から 50km 以内の森林整備箇所から未利用林地残材が供給されている。
- 2 供給元は、主として四万十川源流～上流域であり、「日本最後の清流 四万十川」の水を育む森林の整備に大きく貢献している。

# 森林資源の循環

J-VER を 1t-CO<sub>2</sub> ご購入いただくことで、山に放置されていた林地残材約 3 トンを搬出することができます。このように、J-VER クレジットの活用は、過去に排出削減されたクレジットを活用していただくことで、継続的なプロジェクトの実施と新たな温暖化対策への投資になります。

高知県では、森林資源の環境価値を「森林吸収」、「排出削減」、「木材固定」と捉え、オフセット・クレジット制度に積極的に取り組んでいます。

